



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区国分町一丁目8-13
(仙台協立第1ビル 4階)

電話 022-224-2581

FAX 022-302-3406

《東北大学GLCと「共創型国際共修の実施に関する覚書」を締結》

～グローバル人材育成・国際交流で東北大学と連携協力します！～



参加者で記念撮影



見上会長と山口副学長

2025年1月9日、国立大学法人 東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター（GLC）と仙台ユネスコ協会は、「共創型国際共修の実施に関する覚書」を締結しました。締結式は、東北大学GLCセンター長で副学長の山口昌弘教授を筆頭に関係の教授等の皆様、当協会からは会長・副会長・専務理事が参列し、教育・学生支援部 留学生課の橋本直也課長の進行で行われました。

この覚書は、東北大学の提案する「共創型国際共修」の実施を通じて、国内外の地域における社会課題に積極的に取り組み社会価値を創造する人材を育成すること、および国際交流の推進と双方の発展に寄与することを目的として締結されたものです。（覚書第1条 目的）

これまで東北大学と当協会は、留学生支援事業や青年部の「留学生交流会」など、長い間協力関係を築いてきましたが、2023年度からはさらにSALON国際交流事業や、留学生のサポート活動などでも連携を深めてきました。2024年度に東北大学は、文部科学省の「大学

の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択され、「共創型国際共修」事業を進めることになりました。教育・科学・文化を通じた相互理解による恒久平和を目指して国際交流事業を進めてきた当協会にとっては、活動の理念に沿うものであり、このプログラムのステークホルダーの一つとして参画する機会をいただけたことは、大変光栄なことと考えます。

歴史を紐解けば、世界初の民間ユネスコ協会「仙台ユネスコ協力会」の創設に尽力したのは、東北大学であった土井光知教授が第二代会長になりました。UNESCOパリ本部の当時の事務総長、ジュリアン・ハックスリー博士(英国の生物学者)に送った「設立趣意書」が、戦後の物資不足の中、土井宅にあった障子紙にしたためたものであったというのは有名な話です。

今回の覚書締結を機に、世界の先端に行く教育機関である東北大学から学び、民間ユネスコ活動に取り組んでいきたいと思えます。（副会長：内藤恵子 記）

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年(昭和22年)7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

ユネスコセミナー 産官学民で取り組むSDGs 『どうする 環境とエネルギー』

2月8日(土)ユネスコセミナーを開催しました。昨年実施したアンケートで関心が高かった「SDGs目標7エネルギー」をテーマとし、4人の講師による充実したセミナーとなりました。東北大学学際科学研究所助教の中安祐太氏は、移住先の川崎町からオンラインで講演、科学的データを根拠とした食料とエネルギーの自給を目指す生活実践は、参加者の関心を引きました。環境省東北地方環境事務所次長の藤田宏志氏からは、「環境省の取組/脱炭素・循環経済」と題して国の施策や全国の実践例の提供を、仙台市環境局脱炭素都市推進部脱炭素経営推進課長の横田一馬氏からは「考えてみませんか?環境とエネルギー」と題して、事業所や個人が取り組める具体的な行動をご提案いただきました。また、㈱七十七銀行地域開発課長の小野家拓洋氏から、地元の金融機関として企業・法人への支援の実例をお話しいただきました。

会場から、技術の進歩により大幅なエネルギー削減を実現したJR新幹線の実例紹介もあり、科学の進歩と環境保全の両輪で持続可能な社会をつかっていく道筋に触れた思いがしました。ともすると、科学部門が薄いとみなされるユネスコ活動ですが、教育・科学・文化による平和の実現を目指す、ユネスコらしいセミナーとなったと考えます。

(ESD/SDGs委員会委員長/副会長：内藤恵子 記)



第27回子ども絵画展

「絵で伝えよう!わたしの(町の)たからもの」



受賞者との記念撮影



会場風景

1月21日(火)～1月26日(日) ユネスコ子ども絵画展 第27回「絵で伝えよう!わたしのたからもの」が東北電力グリーンプラザ・アクアホールで開催されました。

今年は小学校34校、中学校12校の参加あり、138点の応募がありました。会場にすべての作品を展示し、作者のメッセージも作品と共に紹介しました。

期間中は1136人の多くの方にご来場いただき、子ど

もたちの作品を見ていただきました。感性豊かな子どもたちの作品に「素晴らしいですね」「元気をもらいました」「絵を描きたくなりました」等々のお言葉をいただき感動が伝わってきました。

最終日には多くの保護者に見守られる中表彰式が行われました。吉田審査委員長より作品の素晴らしさと、これからも自信をもって絵を描いてくださいと講評をいただきました。(参事：原一代 記)

ユネスコ会員企業紹介

～SDGsの取り組みについて～

学校法人朴沢学園

145年の風雪を乗り越えた[建学の精神]・
「実学と創意工夫」－実学教育とSDGs－

2015年に世界の国々が国連で採択した17のSDGsのゴールは、10数年先の2030年とされており、仙台大学と附属明成高校を運営する学校法人朴沢学園は、明治12(1879)年に、仙台市本荒町(現・青葉区一番町)の地で私立の教育機関として誕生し、2025年は創設146年目を迎えるところとなっております。



[建学の精神]は私学にとって[Sustainable Goal]そのものであり、とりわけ本学園の[建学の精神]である「実学」は、[Development]を常に必須としております。同時に「創意工夫」は、[Development]を実現する基本的な手立てとなります。本学園はこの[建学の精神]の下にSDGs実現に向けて100年を超えて歴史を刻んできました。2030SDGsの「目標4」はまさに教育機関の恒久的命題であり、本学園創業者は、創設当時、明治維新後の日本近代化に必要な女性の社会進出という使命を踏まえ、裁縫技術の普及教育に多大な力を発揮しました。考案した「一斉授業」と「雛形教育」は持続可能な教育方法として世に広く評価され、熊本から北海道まで、全国20都

道府県から多数の教え子が仙台の本荒町の地に集まりました。

さて、17のSDGsを担うのは「人間」自体であり、目標実現のためには、担うに足る「身体的健康」が伴わなければなりません。そこで、本学園は「高大7年間接続教育」という視点をベースに、学園創業者の「実学と創意工夫」を引き継ぎ、2030SDGsを踏まえ、この「身体的健康」に係る人材育成教育を令和の時代に入って再構築しました。具体的テーマの中心は、「体育とスポーツ科学」・「食とスポーツ栄養科学」であり、附属高校では、[普通科]ではなく、大学の資源を活かした[専門学科]として「スポーツ創志科」を開設し、実学教育に当たっております。2030年には、本学園のこのSDGsの取組みが大きな果実をもたらすものと期待しております。



〒981-8570 宮城県仙台市青葉区川平2-26-1
TEL 022-278-9136
<https://hozawa.ac.jp>

弘進ゴム(株)

当社は昭和10年より仙台に本社を構え、長靴や合羽等の生活用品から、自動車・各種機械用ホースや土木建築・農林漁業に使われる産業用ホースに至るまで、ゴム・樹脂製品の製造と販売を行う、今年で創立90周年を迎える会社です。

「Imagine & Create～わたしたちは、新しい価値の創造で豊かな暮らしを実現します」を経営理念に掲げ、みなさまの豊かな暮らしづくりへの貢献を考えた経営を行っています。

≪地域との関わり≫

・地域未来牽引企業

平成29年に経済産業省より地域未来牽引企業に選定され、本業を通じて地域の発展に貢献しています。



地域未来牽引企業

・弘進ゴムアスリートパーク仙台

仙台市のネーミングライツを取得し、平成29年から仙台市陸上競技場を弘進ゴムアスリートパーク仙台とし、スポーツ振興に貢献しています。



・仙台89ERSオフィシャルスポンサー

平成30年からプロバスケットボールチーム仙台89ERSのオフィシャルスポンサーとして、地元のプロスポーツの活性化に協力しています。



≪SDGsへの取り組み≫

県南の亘理町にある亘理工場では二酸化炭素排出量削減のために設備の入れ替えを実施したり、今年予定として仙台市が推進する「子育て支援自動販売機」を設置するなど継続的な取り組みを進めています。

〒980-0011 宮城県仙台市若林区河原町2丁目1-11
TEL 022-214-3011(代) FAX 022-214-6831
<https://www.kohshin-grp.co.jp>

SALON & ZOOM講座 2024年度平和祈念講演会 & 茶話会報告

2024年度平和祈念講演会&茶話会が12月1日、戦災復興記念館で開催され、ルワンダの教育を考える会理事 永遠璃マリールイズさんを講師としてお招きし講演会を行いました。ルワンダ内戦を生き抜き、福島に避難後、NPO法人を設立したルイズさんは、教育と平和の重要性を訴え、全国各地で講演活動を展開しています。

この日の講演では、内戦前のルワンダの美しい自然と文化、ルワンダの内戦による難民となっていく過酷な体験、難民キャンプでの医療通訳活動を通じて平和の重要性について語っていただきました。また、福島での震災後、地域住民との交流を深め、ルワンダでの学校建設や支援活動にも取り組んでいることも紹介されました。

質疑応答の時間には、参加者から感銘を受けた声が

多く寄せられました。午後には仙台ユネスコ協会の会員との茶話会が行われ、参加者は和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

このイベントは、平和と教育をテーマにした重要な機会であり、参加者にとって「人とのつながり」「教育の意義」を再確認する貴重な時間となりました。引き続き「平和祈念プロジェクト」を継続していければと思います。ご協力いただいた青年部をはじめ会員の皆様から心から感謝申し上げます。(参事：菊地恵美子 記)



ルワンダの教育を考える会理事長 永遠璃マリールイズさん

仙台ユネスコ協会 情報交換会



屈先生に感謝状贈呈

仙台ユネスコ協会活動報告会・交歓会を12月9日、DUCCA仙台駅前店3階を会場にして47名参加のもと開催いたしました。最初に長年にわたり当協会の中国語講座にご尽力いただいております屈明昌先生に見上会長より感謝状贈呈を行いました。

活動報告は青年部からは仲海渡さん他5名から「平和七タプロジェクト」・「宮城ユネスコキャンプ」・「平和祈念講演会」及び「全国青年部大会」の報告があり、そして西條副会長からは地域の文化と歴史を学ぶ「ユネスコカレッジ」の活動報告がありました。その後の中村前会長の乾杯の後、交歓会がスタートし各方面からのご挨拶のほか、会員のスピーチで交流をはかることができました。

(企画・広報委員会委員長/副会長：松坂宏造 記)

第80回 日本ユネスコ運動全国大会 in新居浜

11月23日(土)リーガロイヤルホテル新居浜にて、「持続可能な未来へ～SDGsの先進事例から学ぶ～」をテーマに、研究協議・情報交換が行われました。記念講演では、住友史料館顧問及び元広瀬歴史記念館名誉館長の末岡照啓氏による、別子銅山の地域との共存共栄の理念の元に発展させる礎を築いた講演と、借りた自然は、借りる前の自然に戻すといった先進事例の発表がありました。

続いて実践発表では、新居浜市ユネスコスクールの発表で小学校3校の発表がなされ、新居浜市全小・中学校がユネスコスクール校であることに驚かされました。

冒頭では、当青年部であり日本ユネスコ協会東北ブロック青年代表理事の中谷祐太さんの発表もあり、当協会からは、青年部も含む6名が参加し、今後の活動や学びを深める研修となりました。

(事務局長：針生真由美 記)



これからの行事予定

- 5月29日(木) 第82回定時総会
- 7月 6日(日) 「民間ユネスコ運動の日」記念講演会

会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています!

団体会員(一口) 年会費	20,000円
個人会員(一口) 年会費	5,000円
青年部会員(一口) 年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	73
個人会員	124
青年部会員	14
合計	211

(1月末現在)

【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子
 畠山 明 岩山 浩一
 佐藤 光記 千葉 雅保

【編集後記】

ユネスコ会報477号をお届けします。このたび国立大学法人東北大学高度教養教育学生支援機構グローバルラーニングセンター(GLC)と仙台ユネスコ協会が「共創型国際共修の実施に関する覚書」を締結しました。教育・科学・文化を通して相互理解により恒久平和を目指す国際交流に、さらに取り組んでいけたら素晴らしいですね。

仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子